

指定地域福祉教育懇談会開催!

2013. 11. 30(土)

2013年度に北海道社会福祉協議会の「学童・生徒のボランティア活動普及事業協力校」の指定を受け、花園小学校・緑小学校・稲穂小学校(第32期 最終年)、天神小学校(第33期)、向陽中学校(第34期)が様々な活動をされました。活動をとおして感じたことを一所懸命に発表する子どもたちの姿に、講師の藤田泰昭氏(国立日高青少年自然の家 主任企画指導専門職)から「人のためにどうしなければならないか」ということを常に考えながら活動していることが、発表を聴くだけでもうかがえた」、また福祉教育懇談会についても「1つのテーマで、大人と子どもが一緒になり意見を出して話し合う場合は、他の地域ではなかなかなくて非常に貴重な場であり、子どもの活動を、きちんと大人が支えている状況がよく伝わってきた」との感想がありました。(町会、民生委員、教育関係者、施設、ボランティア他96名参加)



子どもたちの発表



地域別懇談



懇談内容報告



藤田講師提言



会場の様子

「歳を重ねるってどういうこと」高齢者擬似体験研修会

2014. 1. 25(土)



社会福祉法人栄和会 特別養護老人ホーム厚別栄和荘 総合施設長の瀬戸雅嗣氏を講師に迎え、歳を重ねることで変わってくること、新しい発見、あじわい、楽しいこと、淋しいことなど高齢者擬似体験をとおして高齢者への理解を深めました。(高校生を含む9名参加)



参加者からは、「認知症の方の世界観について、行動には意味があることをあらためて知ることができ、接し方を考えることができた」「自分ではできると思うことがゆっくりとしかできず、もどかしさがあることがわかった」「身体の自由がきかなくて重いため、どうしたらケガなく過ごせるかを考えながら行動しなければいけないと思った」「おばあちゃんがよく寝ているが、疲れて動かたくなる気持ちがよくわかった」「やさしい気持ちを忘れず、声をかけていきたい」などの感想がありました。



第15回小樽ボランティア会議「寒中避難訓練～冬道を逃げられますか」

主催：小樽ボランティア会議 2014. 2. 22(土)

当日の朝は大雪に見舞われ、高速道路も小樽ICから銭函ICまで通行止めになるなど、みなさん自宅の周辺の除雪作業を終えてからの研修会参加となりました。前半で、小樽地区防災ボランティア会の指導のもと、日本手ぬぐいやパンティーストッキングなど身近なものを使用した応急手当、命を守るロープの結び方などを学びました。後半は、アイマスクを着用したり車椅子を使用して雪道の避難体験を実施し、福祉センターの中では、停電を想定し照明のない階段を、高齢者擬似体験セットを装着して避難体験をしました。体験終了後は、レスキューキッチンを使用した豚汁の炊き出しで、冷えた身体を温めました。(29地域、24団体から5名の個人を含む57名が参加)



パンスト 肩



パンスト 頭

参加者から「今回学んだことを、緊急時にもまごつかないように何度も練習していきたい」「雪道を目が見えない状態で歩く困難さを学び、近所の道は、市民が考え、歩行通路の確保が必要と思いました」「冬道の車椅子使用には、無理な道路が多すぎる」「車椅子に乗る方、押す方ともにこんなに大変だとは思わなかった」「高齢者擬似体験は、思っていたよりもずっと大変で、目が見えないことの恐怖心や身体が重たく動けないことへの不安感は、体験してみてわかりました」「災害は何時起こるかわからないので、身近な障がいを抱えた方の所在と冬場の避難経路の確保などに気をつけていかなければいけないと思いました」



日本手ぬぐい 膝



ロープの結び



高齢者擬似体験セットをつけて階段を避難

「ネットワークや近所づきあいなど、お互いに助け合えるような関係を作っていきたいと思えます」などの感想がありました。サポートボランティアのみなさん、ご協力ありがとうございました。研修会開催希望などご相談は、小樽ボランティア会議事務局の小樽市ボランティア・市民活動センターへご相談ください。



ロープの結び



簡易担架製作



車椅子を使用した雪道の避難体験



アイマスクを装着した雪道の避難体験



レスキューキッチンを使用した豚汁の炊き出し試食

